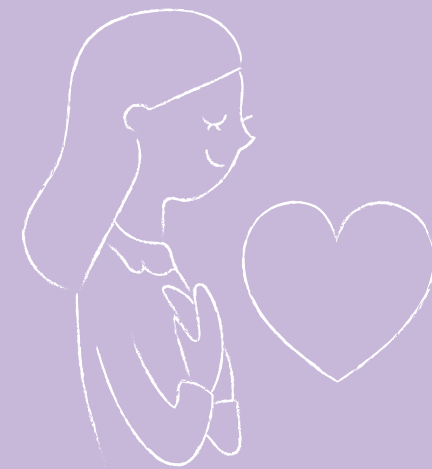




発行・お問合せ: **札幌市男女共同参画センター**
(指定管理者:公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会)

〒060-0808 札幌市北区北8条西3丁目札幌エルプラザ公共4施設内
Tel: 011-728-1255 Fax: 011-728-1229
Mail: jigyou@danjyo.sl-plaza.jp

2019年度
**ガールズ相談
報告書**



札幌市男女共同参画センター
(指定管理者:公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会)

札幌市男女共同参画センター 「ガールズ相談」の想い

ガールズ相談を続ける中で、ずっと願っていることがあります。それは、相談数が0になることです。

ガールズ相談は2016年にスタートし、4年後の2020年1月までに7回の相談を実施しました。4年間で延べ4500件を超える相談が寄せられました。その中には恋人のこと、進路のことといった悩みから妊娠や暴力に関する緊急性の高い相談までさまざまな悩みがあります。

「女の子らしい格好が苦手でスカートをはきたくない」「彼氏に自分の意見を言って嫌われないだろうか」といった、「女の子とはこうあるべき」といった考え—ジェンダーにとらわれているような相談もあります。

日々で生じるモヤモヤをガールズたちは「こんなこと考える私がヘンなんだ。」「これくらいで悩むのがおかしい」とのみ込んでしまい、誰にも言えずに苦しんでいます。しかし、そのモヤモヤには本人が自覚していないジェンダーをはじめとする複雑な問題が隠れていることもあります。

今の日本の社会ではガールズは「女の子らしく」いることを期待され、行動や生き方を制限されることが多く、ガールズ自身も無意識に「女の子」として振る舞ってしまいます。その結果、女の子たちが暴力や性的搾取の被害の対象になりやすいという現状があります。

私たち札幌市男女共同参画センターはジェンダー平等な社会の実現を目指してさまざまな事業に取り組んでいます。ジェンダー平等な社会とはすべての人が性別や社会的役割にとらわれず、その人個人として自由に自分の生き方を選択し、行動できる社会だと考えます。

ガールズ相談で悩みを吐き出し、抱えているモヤモヤが十分に悩む価値のある問題であること、信頼できる大人が存在すること、そして周囲にあふれるジェンダー観に気づいてもらうことを目標に相談に向かっています。

ガールズ相談をきっかけにガールズたちが型にはめられ、押し付けられた「女子力」をなぞるのではなく、本来彼女たちがもっている力強い「Girls Power」で自分の人生を切り拓いていくようになってほしいです。そして、いつの日かガールズたちが悩んだときに家族や友人など、顔の見えるつながりにある仲間が支えてくれて、画面の向こうのガールズ相談が必要とされなくなる日が来ることを願っています。

「ガールズ相談」が大切にしていること

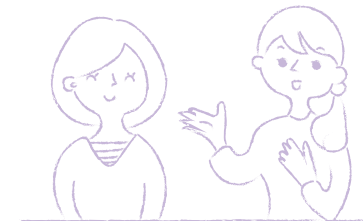
1. ガールズが「主体的に生きる力」を身につける。

相談を通して「誰かに悩みを相談してもいいんだ」「相談することは恥ずかしいことではないんだ」とガールズが気づき、「自分を大切に思う気持ち」を持つことで、困難に直面した際に周囲とつながり、「主体的に生きる力」を身につけるサポートをします。

2. ガールズを取り巻く問題を明らかにする。

ガールズが抱える問題の多くは、「ガールズ個人の問題」ではなく「社会の問題」です。「ガールズ相談」の実施報告や相談から明らかになった問題をテーマにしたワークショップなどを行うことで、札幌のガールズがどんな悩みを抱えているのかを学校や地域社会、ガールズ自身にフィードバックをし、問題の解決につなげていきます。

(詳細は9～11ページをご覧ください。)



実施団体

札幌市男女共同参画センター

(指定管理者：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会)

性別によって仕事や生活が制限されたり、家庭や職場などでの役割が決められることなく、個人の希望が尊重され、「自分らしい」生き方が選択できる社会を目指して、講演会や学習会、相談窓口の開設、情報誌の発行などさまざまな事業を行っています。

札幌市男女参画センターで 扱っているテーマ

女性活躍推進、ワークライフバランス、働き方改革、ガールズのエンパワーメント、SDGs、ジェンダー平等、ダイバーシティ、SOGI、女性に対する暴力 など



男女共同参画情報誌「りぶる さっぽろ」

相談概要

時期	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
対象	中学生・高校生・大学生、		またはこの年齢に相当する女性	
実施期間	2016年8月25日(木)～9月7日(水) 月～木 16:00～19:00 金 19:00～22:00 土・日 13:00～16:00	【夏期】 2017年8月25日(金)～9月7日(木) 月・火・木 18:00～21:00 水・金 19:00～22:00 土・日 16:00～19:00 【冬期】 2018年1月11日(木)～1月24日(水) 19:00～22:00	【夏期】 2018年8月20日(月)～9月2日(日) 19:00～22:00 【冬期】 2019年1月10(木)～1月23日(水) 19:00～22:00	【夏期】 2019年8月19日(月)～9月1日(日) 19:00～22:00 【冬期】 2020年1月13日(月)～1月26日(日) 18:30～21:30
相談方法	LINE、電話、面談	LINE		2019年12月に内閣府より受託した「性暴力に関するSNS相談Curetime」を実施しました。 LINE・Curetimeシステム <small>2019年度冬期は「性暴力に関するSNS相談Curetime」で使用していたシステムも使用しています。</small>
相談員体制	臨床心理士やキャリアカウンセラー、スクールカウンセラー (2017年度からは臨床心理を学んでいる大学院生、セクシュアル・マイノリティの支援をされているNPO団体の方にもご協力いただいています。)		ウンセラーなどとして活動されている女性相談員 (2019年度冬期は「性暴力に関するSNS相談Curetime」で使用していたシステムも使用しています。)	
広報の取り組み	カード、ポスター、チラシ、うちわ 	カード、ポスター 		カード、ポスター 
	札幌市内・近郊の中学校・高等学校・大学、 中学校・高等学校については、女子生徒1人に1枚		児童会館、若者活動センターなどに配布。 カードが渡るよう、各学校にご協力いただきました。	

相談結果

●相談件数

2016年度

589件

【内訳】

- ・相談対応完了件数 98件
- ・相談中に返信が途絶えた..... 119件
- ・時間が足りなくて対応できなかった..... 372件

※2016年度はLINE以外に電話と面談でも相談を受け付けた。電話は24件あり、面談は0件だった。

2017年度

1153件

【内訳】

- ・相談対応完了件数 359件
- ・相談中に返信が途絶えた..... 125件
- ・時間が足りなくて対応できなかった..... 669件

2018年度

1709件

【内訳】

- ・相談対応完了件数 360件
- ・相談中に返信が途絶えた..... 149件
- ・時間が足りなくて対応できなかった..... 1200件

2019年度

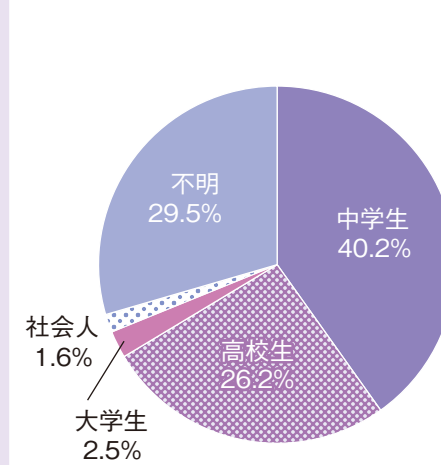
1147件

【内訳】

- ・相談対応完了件数 282件
- ・相談中に返信が途絶えた..... 179件
- ・時間が足りなくて対応できなかった..... 686件

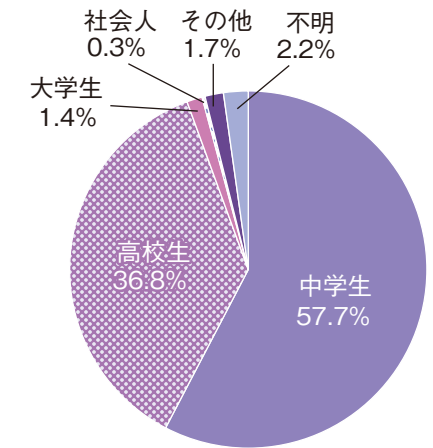
●相談者

2016年度

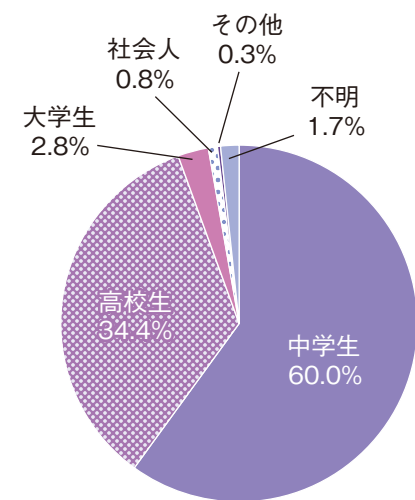


※2016年度は電話の相談者も含む。

2017年度

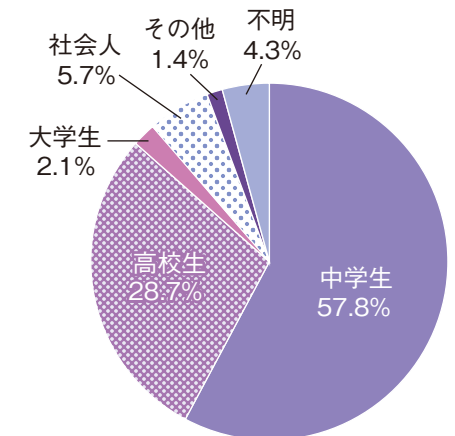


2018年度



※少数第二位を四捨五入。

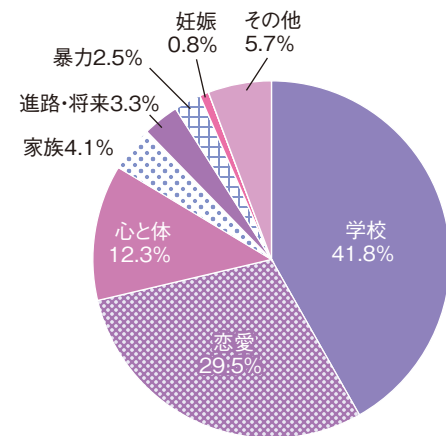
2019年度



相談結果

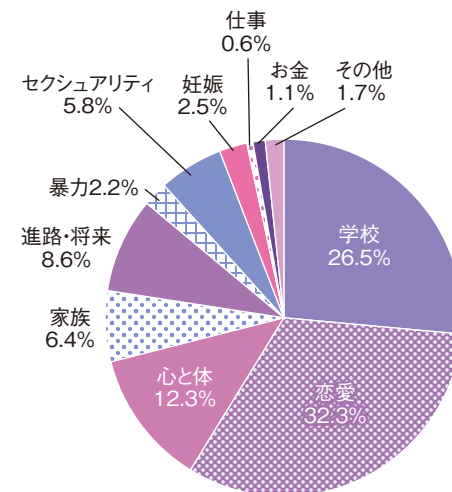
●相談内容

2016年度



※2016年度は電話の相談内容も含む。
 ※2016年度のセクシュアリティに関する相談件数は「心と体」の項に含む

2017年度



相談者は中学生が多い・1年生の抱える不安

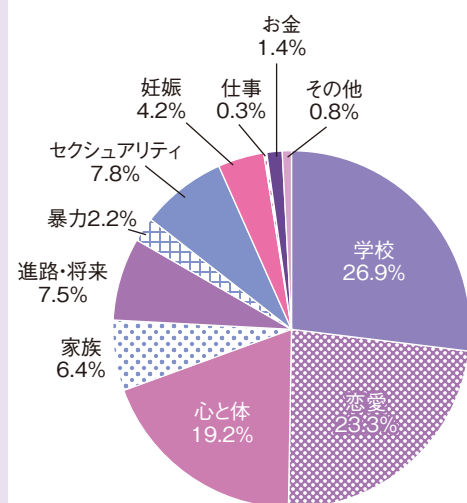
例年に続き、2019年度も中学生の相談者が半数以上を占めています。中学生は行動範囲が限られる中で「学校」と「家庭」に活動拠点が限られ、相談・信頼できる大人がいないと感じていること、また、相談窓口を知らないことが一つの原因と考えられます。中学生・高校生の中ではどちらも1年生からの相談が多く、環境が大きく変化したことによって抱える不安や人間関係についての相談が増えている傾向がありました。

「恋愛」「人間関係(家族・友人)」「心と体」の相談がトップ3

「恋愛」に関する相談は、「好きな人から暴力を受けている」、「妊娠したかもしれない」、彼氏との性行為についてなど、相談者は恋愛相談だと思っけていても、実は緊急性の高い相談であることもありました。

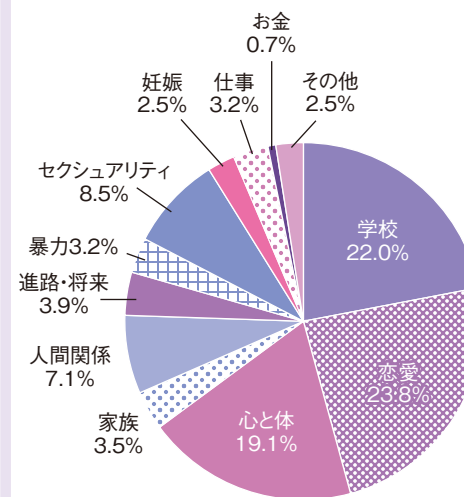
「心と体」の相談では、ダイエットの悩みや初経が来ていないという相談などがあり、また自己肯定感が低いことによる悩み、何事にもやる気が出なく倦怠感があるなどの心の悩みが目立ちました。

2018年度



※少数第二位を四捨五入。

2019年度



※2019年度冬期から「家族」に代わり「人間関係」の項目を追加。

増加する「セクシュアリティ」の悩み

自分の性別がしっくりこないといった性別違和や、同性愛などのセクシュアリティの相談が増加しています。「セクシュアリティ」という項目を追加し、統計を取り始めた2017年度はセクシュアリティの悩みが全体の5.8%だったのに対し、2019年度では8.5%と年々増加傾向にあります。広報でセクシュアリティの相談も可能とうたっていること、セクシュアリティの相談を行っている窓口が少ないことと、身近な人に相談しにくいといった理由が考えられます。

「同性の女性を好きになってしまったから、男になりたい」と、恋愛対象は異性でなければならないという固定概念にとらわれた相談を受けるなど、セクシュアリティの知識がないため、「こんな風に思う自分の変なのではないか」と悩んでしまうガールズが多いように思います。アンケートでは相談完了者の半数以上が「前向きな気持ちになった」と回答しており、今後もガールズ相談の期間外でも相談できる専門機関の紹介や、知識を提供していきたいと思ひます。

札幌ガールズ相談事情

ガールズ相談に相談に来てくれた子からの声をご紹介します。

対象:2019年度ガールズ相談対応完了者282名(有効回答数135件)

集計方法:Webアンケート

いつも相談する相手

- ・友人 …… 50%
- ・親 …… 20%
- ・相談しない ……

41%



今後「ガールズ相談」で利用したい相談方法を教えてください。

LINE …… 91%

「LINE」で相談したい理由

- ・時間と場所を選ばないから …… 55%
- ・相談内容が他の人にバレないから …… 54%
- ・コミュニケーションが苦手でも相談できるから …… 53%
- ・人と会って話さなくて良いから …… 45%
- ・使い慣れているツールだから …… 43%

ガールズからのメッセージ

- ・予想以上に話を聞いてくれて、安心して話すことができました。友達にもおすすめしました!
- ・優しく聞いてくれて、詳しくアドバイスをしてくれて嬉しかった。
- ・丁寧に相談してくれて、話しやすかったです。また相談したいです。
- ・とてもスッキリしました。自分を客観的に認識できてよかったです。
- ・誰にも話せなくてモヤモヤしてたのが少し軽くなりました!
- ・否定せずに話を聞いてくれて、安心して涙が出ました。本当にありがとうございました。
- ・気持ちが楽になりました! 前向きになることができました。ありがとうございます!
- ・誰にも言えなくて、でも誰かに聞いてほしかったので、ホッとしました。またお願いします。
- ・ゆっくり話を聞いてくれて、言いたいことを整理しながら相談することができました。
- ・1対1で安心して話すことができた。「うんうん」とか返信してくれて、気持ちが伝わってくる感じがして話しやすかった。



ガールズ相談の今後

「女の子たちが相談できる場所がない」という気づきから始まったガールズ相談は今年度で4年目を迎えました。この4年間でガールズたちが抱える悩みは、私たちが想像していたよりも「ジェンダー」に関わる悩みが多いことに気づきました。

彼女たちの課題を根本的に解決していくためには、彼女たちの周りにいる大人に彼女たちの課題を伝えていくこと、そして彼女たちの生きる社会を変えていく必要があります。そのために関係機関と連携し、協力体制をつくっていきたくて考えております。

この報告書を手にとって下さった皆さんとともに、支援を広げていければ幸いです。

2019年度 札幌市男女共同参画センターの取り組み

札幌市男女共同参画センターでは、10代・20代の若年層を対象にさまざまな事業を行っています。「ガールズ相談」で明らかになったガールズたちが抱える悩みを参考に、ワークショップなどの事業を企画・運営しています。2019年度に行った取り組みをご紹介します。

りぷるサロン「理想の恋人演じてない?—I.LADY×りぷるさっぽろ」



ガールズ相談では性や体に関する悩み、恋愛に関する悩みが多く寄せられます。そこで、若年層にもっと自分の体や性について知ってもらい、話し合ってもらうために、2020年2月11日に東京の公益財団法人ジョイセフさんのプロジェクト「I.LADY」ワークショップを道内で初めて開催しました。商品に見立てたカードを選んだり、専用のノート「I.LADYノート」を使ったりといったグループワークを行いました。参加者同士で意見を交わし、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(SRHR:性と生殖に関する健康・権利)について学び、自分を見つめ直して自分に自信を持つきっかけとなりました。参加者からは「知らないことがたくさんあった」「性についてオープンに話していいんだ」といった感想が寄せられました。

性暴力に関するSNS相談「Curetime」

札幌市男女共同参画センターでは2019年度内閣府から「若年層の性暴力被害者に対するSNSを活用した相談・支援事業」を受託し、全国で初めての若年層に特化した性暴力に関するSNS相談を実施しました。全国実施協力団体の4か所のうち唯一の男女共同参画センターとして相談窓口を開設しました。相談



の中では、過去の性暴力に関するトラウマを打ち明けてくれるケースが多く、性被害に遭うことはその後の人生に大きな影響を与え続けることに改めて気づきました。相談者からは「今まで誰にも打ち明けられなかった」「話を聞いてくれてありがとう」という声が寄せられ、従来の電話や面談の相談窓口では相談できなかった若年層の相談に対応することができました。